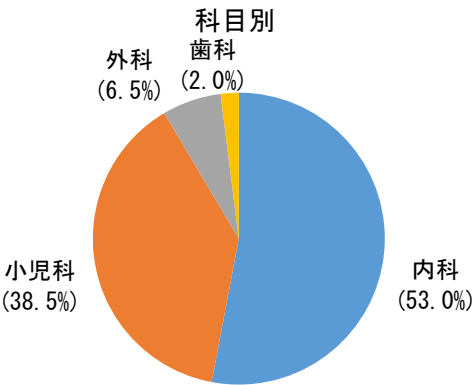


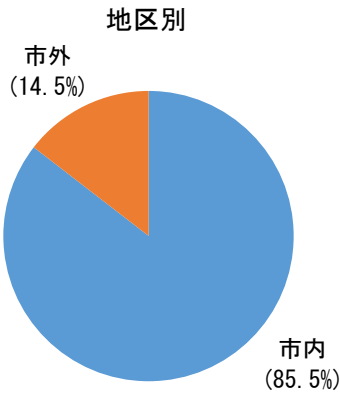
(1) 令和5年度小牧市休日急病診療所事業報告について
ア 診療状況について

(ア) 科目別診療状況

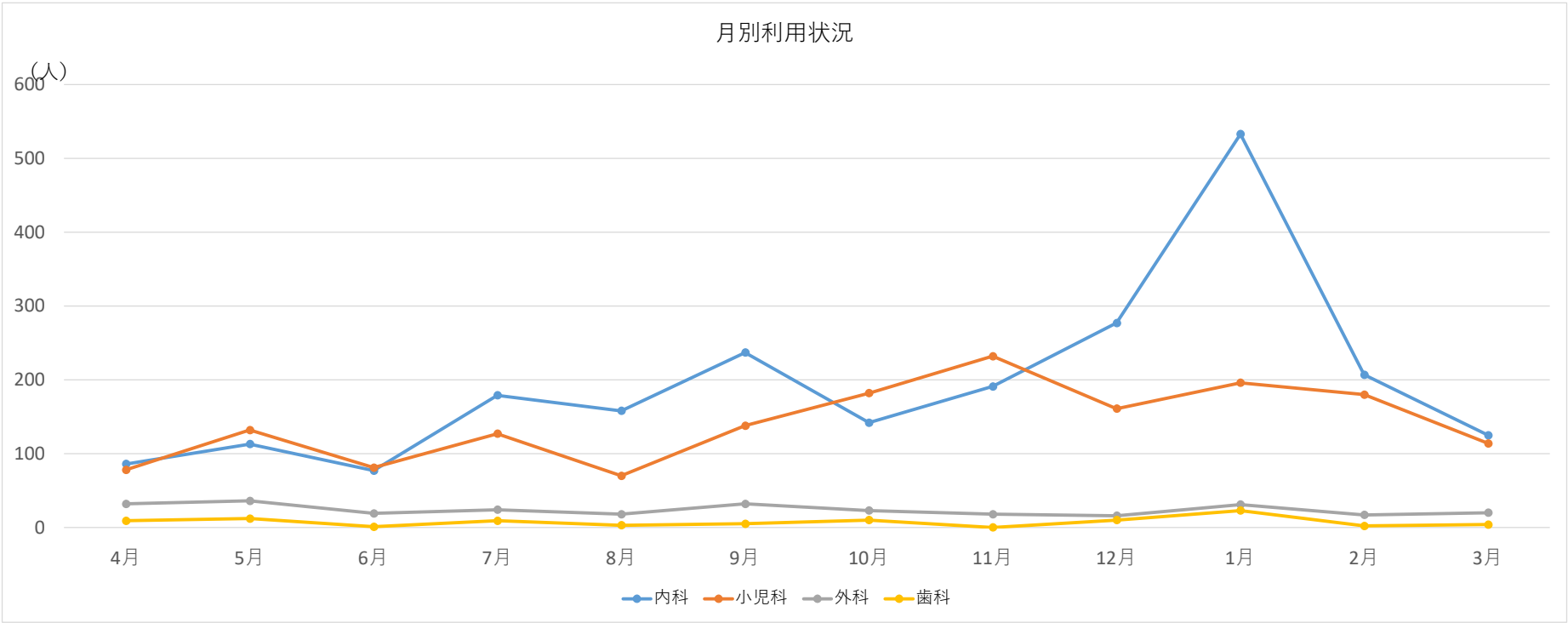
		令和5年度	令和4年度
科目別診療数(人)	内科	2,325 (53.0%)	1,890 (56.3%)
	小児科	1,691 (38.5%)	1,125 (33.5%)
	外科	286 (6.5%)	259 (7.7%)
	歯科	88 (2.0%)	83 (2.5%)
合 計		4,390 (100.0%)	3,357 (100.0%)
診療日数(日)		71	70



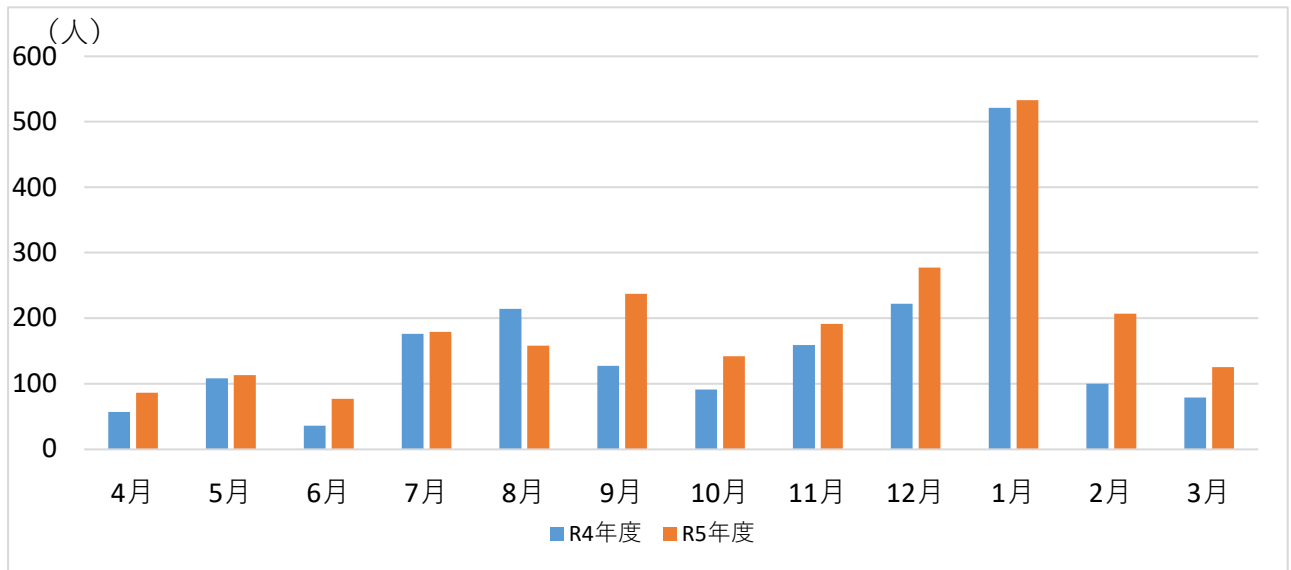
内科、小児科が全体の91.5%を占めています。



利用者の大半が市内在住者です。

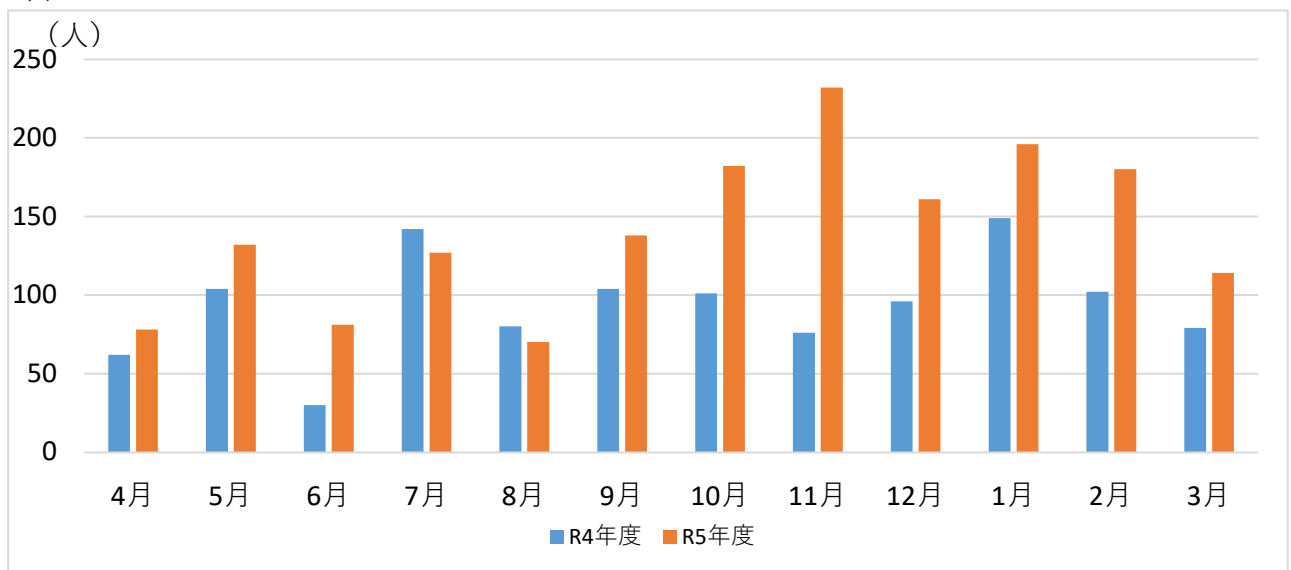


(イ) 令和4年度及び令和5年度月別受診者数
内科



		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R4年度	受診者数	57	108	36	176	214	127	91	159	222	521	100	79	1,890
	診療日数	5	8	4	6	6	6	4	7	5	8	6	5	70
R5年度	受診者数	86	113	77	179	158	237	142	191	277	533	207	125	2,325
	診療日数	6	7	4	6	5	6	6	6	5	8	6	6	71
受診者数差 (R4 - R5)		29	5	41	3	-56	110	51	32	55	12	107	46	435

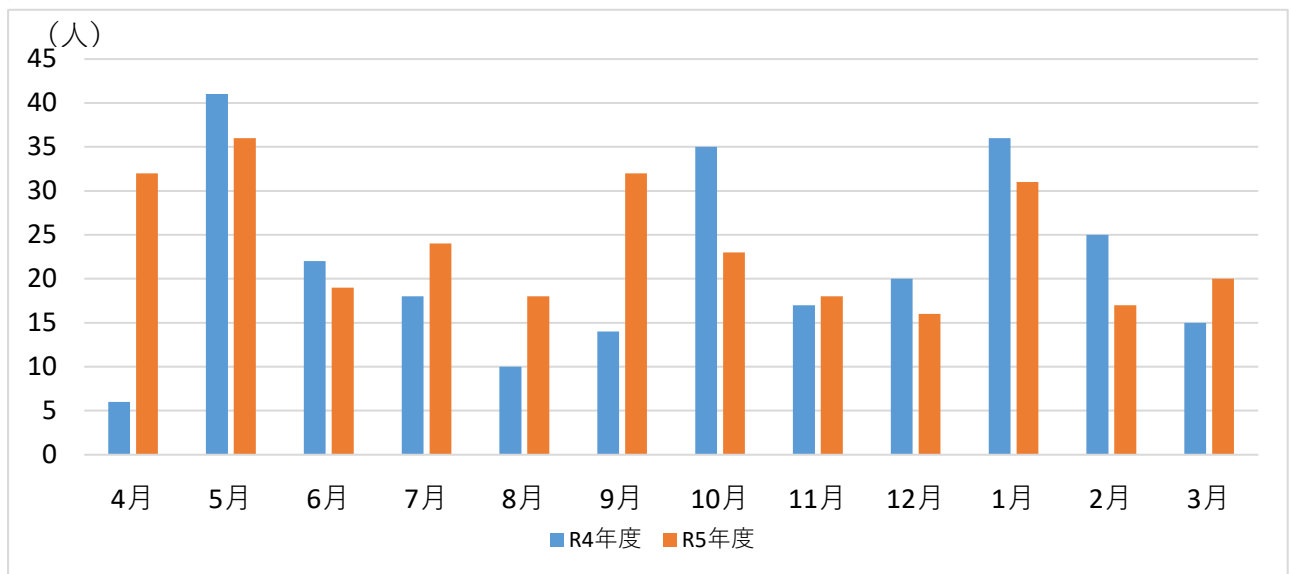
小児科



		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R4年度	受診者数	62	104	30	142	80	104	101	76	96	149	102	79	1,125
	診療日数	5	8	4	6	6	6	4	7	5	8	6	5	70
R5年度	受診者数	78	132	81	127	70	138	182	232	161	196	180	114	1,691
	診療日数	6	7	4	6	5	6	6	6	5	8	6	6	71
受診者数差 (R4 - R5)		16	28	51	-15	-10	34	81	156	65	47	78	35	566

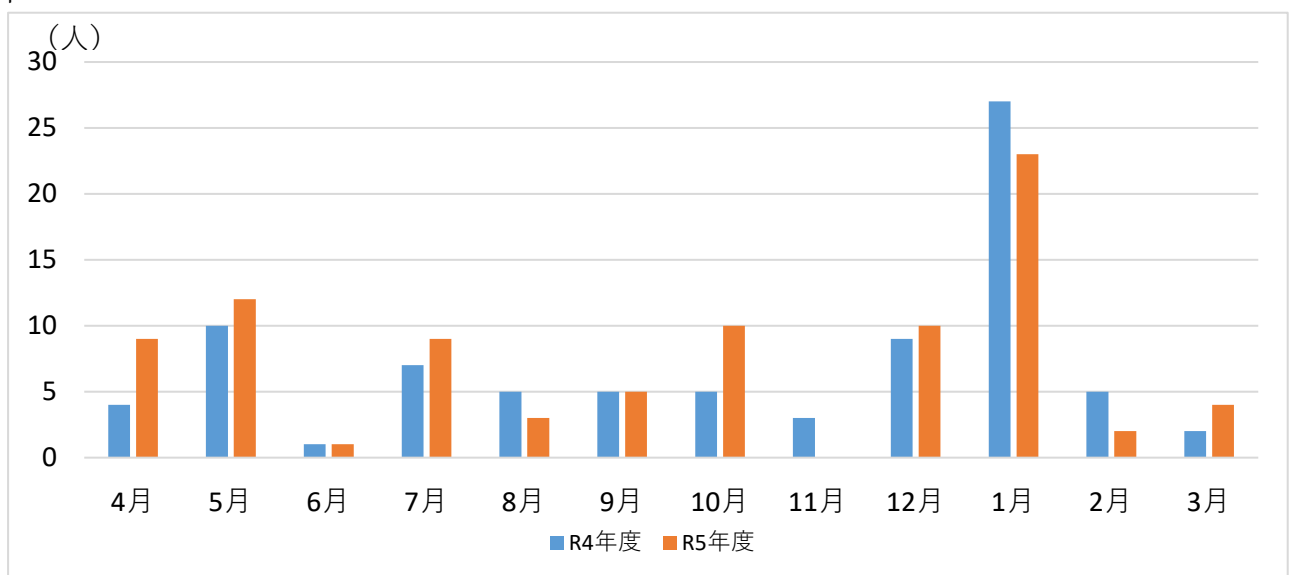
令和4年度と令和5年度の通年での患者数を比較すると令和5年度受診者数は内科が23.0%、小児科が50.3%の増加となった。月別に見ると、内科は8月に26.2%の減少となった以外はすべての月において増加している。特に6月及び2月においては100%超の増加となっている。小児科は7月に10.6%、8月に12.5%の減少となった以外はすべての月において増加している。特に6月においては100%超、11月においては200%超の増加となっている。

外科



		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R4年度	受診者数	6	41	22	18	10	14	35	17	20	36	25	15	259
	診療日数	5	8	4	6	6	6	4	7	5	8	6	5	70
R5年度	受診者数	32	36	19	24	18	32	23	18	16	31	17	20	286
	診療日数	6	7	4	6	5	6	6	6	5	8	6	6	71
受診者数差 (R4 - R5)		26	-5	-3	6	8	18	-12	1	-4	-5	-8	5	27

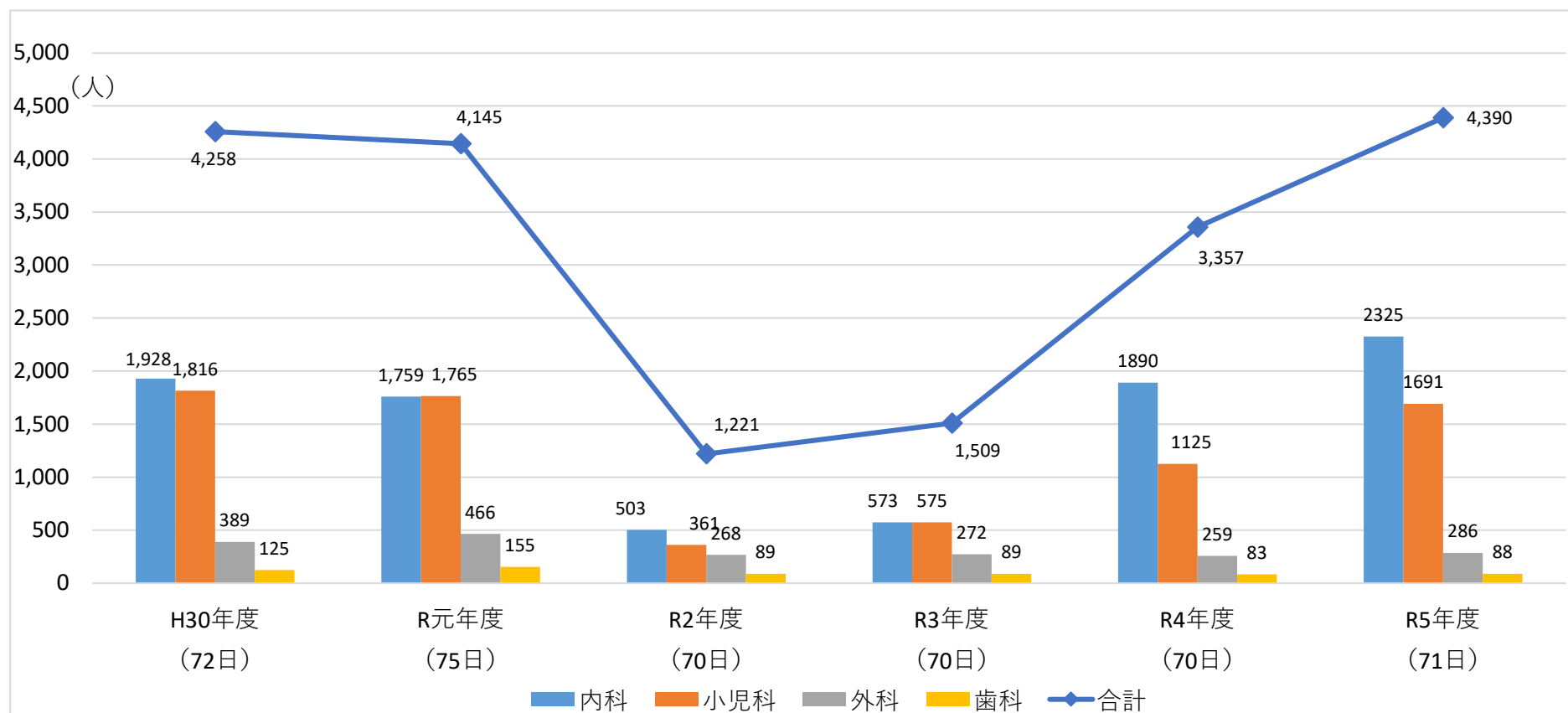
歯科



		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R4年度	受診者数	4	10	1	7	5	5	5	3	9	27	5	2	83
	診療日数	5	8	4	6	6	6	4	7	5	8	6	5	70
R5年度	受診者数	9	12	1	9	3	5	10	0	10	23	2	4	88
	診療日数	6	7	4	6	5	6	6	6	5	8	6	6	71
受診者数差 (R4 - R5)		5	2	0	2	-2	0	5	-3	1	-4	-3	2	5

令和4年度と令和5年度の通年での患者数を比較すると令和5年度受診者数は外科が10.4%、歯科が6.0%の増加となった。月別に見ると、外科は4月に433.3%、9月に128.6%増加している反面、半数の月で減少となっている。歯科は4月、10月、3月で100%超の増加となった。また、11月においては、月間の患者数が0となっている。

(ウ) 平成30年度～令和5年度利用者実績（年度ごと）



平成30年度から令和2年度にかけては減少傾向であったが、令和3年度には増加へと転じている。令和4年度は前年度比122.5%増と大幅な増加となり、減少傾向となる以前程度まで患者数が戻っている。令和5年度は、過去6年間に於いて最も患者数が多い一年となった。令和元年度から令和2年度にかけて患者数が大幅に減少した要因としては、令和元年度（R1第49～52週及びR2第1～5週）と比較して令和2年度（R2第50～53週及びR3第1～5週）におけるインフルエンザ患者数が激減したこと（県内定点医療機関あたりの患者数を比較した際、99.93%の減少）と、新型コロナウイルス感染症に起因する診療控えが複合的に発生したためと考えられる。令和3年度は令和2年度とほぼ同様の傾向にありつつ、新型コロナウイルス感染症患者（疑い含む）の来院が増加したことにより、内科、小児科の患者数が増加、全体としても前年度比増となった。令和4年度は新型コロナウイルス感染症患者が爆発的に増加した所謂第7波、第8波に加え、季節性インフルエンザの流行（年末年始の県の定点医療機関比較で、503.73%の増加）による内科、小児科の患者数増加が生じた。令和5年度は年間を通してインフルエンザ等の感染症が流行し、特にインフルエンザにおいては県の定点医療機関比較によると前年度比で500%超の感染者数増加となったことから、内科、小児科の患者数増加が生じた。

(工) 令和5年度休日歯科診療実施状況

[illegible]